



### 連載 資産運用「茶飲み話」(3)

岡本 和久

株式投資は馬券を買うのとは違う、馬主になることなのだ

投機と投資はどう違うか、私は次のように考えています。

投機は、結果に法則性がないことを対象に資金を投ずる  
投機は、結果をコントロールすることができない



投資は、結果にある程度の法則性があることに資金を投ずる  
投資は、結果をある程度、コントロールすることができる

最も典型的な投機はコインの裏表やサイコロの目をあてることです。パチンコも投機的ですが、人によっては、台を選ぶなど、少し分析的な要素も交じってきます。競馬は、(私はあまり知りませんが)馬の調子や、馬場の状態など、さらに分析的な部分が増えるようです。

株式投資は「ある程度」、結果に法則性があり、その結果を「ある程度」コントロールする術もあります。この「ある程度」というところがミソで、完全にはできない。この「できない」という部分をリスクというのです。

よく「株式投資なんて競馬みたいなものだよ」という人もいます。そういう人は株式＝馬券と考え、馬券がペアになると同じように株式もペアになると考えています。でも、本当は違います。株式を持つということは企業のオーナーになることです。つまり、競馬で言えば馬主になることに近いのです。

馬券を買うのは1レースごとの非常に短期の取引です。馬主になるのは、その馬との長いお付き合いです。良い馬の馬主になれば馬が賞金を稼いでくれる。良い企業の株主になれば、企業がリターンを稼いでくれる。この点を考えれば、株式投資と馬券を買うのは全然違うことがわかると思います。株価を対象として、それを売買して短期で儲けようとするのは投機です。企業を長期間、保有して、企業の成長とともに自分の資産を増殖しようとするのが本当の投資です。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

### 意識の時空を広げることこそ投資成功の秘訣

私は 2005 年、外資系投資顧問を辞し、今の会社を起業するに際して「瞑想でつかむ投資の成功法」という本を書きました。その本ではこんなことが書かれています。

意識の表面はいつも荒波です。色々な刺激に対して、さまざまな感情が沸き起こり、ストレスが発生します。瞑想で心を静めていくと、表面の意識から、心のなかの奥深いところへ意識が移動して行きます。自分が小さな「今」に縛られたものではなく、とても長い時間の流れのなかの、そして、宇宙全体に広がるご縁のネットワークのなかの存在であることを、少しではあっても感じるすることができます。

投資も同じです。毎日の株価、基準価格や金利、為替の変動は表面の荒波のようなものです。でも、心を静めてマーケットを見れば、表面の荒波の背後にある大きな長期の潮流があることに気がきます。

意識の時空を広げてマーケットを見るのが投資成功の秘訣です。長い時間軸で見る。そして、空間、つまり、個別銘柄ではなく、日本だけではなく、世界中の投資対象を全体としてとらえる。これを具体化したものが、グローバルなインデックス投信の長期保有なのです。

### 長期投資、分散投資の本当の意味は？

「長期投資と分散投資は大切」、これは耳にタコができるくらい聞いている方も多いでしょう。確かに、株価は大きく変動しながら株主資本の増加を反映しながら上昇していきます。でも、大きく変動するときにみんな、同じように変動するわけではない。だから、色々な銘柄に分散投資をしていれば、それぞれの動きがお互いに相殺しあって、比較的なだらかに全体としての価値の増加を反映した株価の上昇を得られる。それはその通りです。

でも、その背景にある事実気が付いている方は割合少ないのです。ある一銘柄のみを持っているとその企業が倒産するとその投資はペアになります。JAL や GM など、記憶に新しいところです。でも、たくさんの企業を持っていれば全部の企業が倒産することは考えにくいのです。

また、ある一年をとってみれば確かに企業利益が赤字になることもあります。しかし、長期的にずっと赤字が続くということも考えにくいのです。株式会社はその起源は東インド会社だと言われます。つまり、この制度はすでに 400 年以上続いているのです。その間、世界の需要が拡大し、企業はその需要を満たすという役割を果たし続けているのです。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

世界中に企業があり、それらが日々、生産活動に従事して我々の生活を支えてくれている。しかも、それはずっと続いていくプロセスなのです。我々の生活を支えてくれる企業を長期的な視点でまとめて保有する。分散投資と長期投資が有効な背景には、ビジネス・ポートフォリオへの分散投資、長期投資という事実があるのです。それが根元にあることをしっかりと認識することはとても大切です。

### 資産運用は犬の散歩のように

例えば、あなたが東京の日比谷公園で犬の散歩をするとしましょう。日比谷交差点を出発、松本楼のあたりを通ってかもめの広場まで行くとします。犬は大喜び、リードの長さいっぱい走り回ります。でも、あなたが道に迷わずしっかりと目的地まで歩いていけば、犬も必ず目的地と一緒にきます。

資産運用も同じことです。犬は株式リターン、リードの長さが「リスク」です。犬が大喜びで走り回るようにリターンも上に、下に変動します。でも、大切なことは「司令塔」であるあなたが目的地に向かって歩いていくことです。

犬に引っ張られて、犬の行きたいところに行くのではないのです。あなたが行きたいところに犬を連れていく。つまり、あなたが司令塔になる。これが資産運用でもっとも大切なことなのです。